

## 「CCUS の早期社会実装会議（第 2 回）」について

### 1. 趣旨

昨今の我が国での豪雨や台風、海外でも欧州の記録的な熱波、北米のハリケーン災害、豪の広範囲の森林火災といった大規模な気象災害が多発する現在の状況は、単なる気候変動問題ではなく、気候危機とも言われる状況になっている。このため、脱炭素社会への移行をはじめとする社会変革を加速させる必要がある。我が国が令和元年 6 月 11 日に閣議決定の上、国連気候変動枠組条約事務局に提出した「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」では、非連続なイノベーションを通じた「環境と成長の好循環」を基本的な考え方として打ち出している。また、本年 1 月 21 日には、統合イノベーション戦略推進会議の下、温室効果ガス排出量の抜本的な削減に向けた「革新的環境イノベーション戦略」が決定され、世界のカーボンニュートラルや過去のストックベースでの二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）削減（ビヨンド・ゼロ）を可能とする革新的技術を 2050 年までに確立することを目指し、我が国は長期戦略に掲げた目標に向けて社会実装を目指していくこととなった。

このような背景の下、我が国は、再生可能エネルギーの主力電源化をはじめとする CO<sub>2</sub> の削減に取り組むつつ、CO<sub>2</sub> を回収し大気中に放出させない CO<sub>2</sub> の回収・有効利用・貯留（CCUS：Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage）の技術確立に取り組んでおり、特に CCS の技術を活用することで、大幅な CO<sub>2</sub> の削減を可能とするカーボンニュートラルな社会の実現が期待されている。

環境省は、経済産業省との役割分担の上、これまで企業・研究機関等と連携し、CCUS に関する各種技術の実証事業を実施してきた。また、環境省が実施する環境配慮型 CCS 実証事業は最終年度の節目を迎えること、脱炭素社会の移行に向けて CCUS の早急な社会実装を進めていく必要があることを踏まえ、CCUS の技術実証の現状の到達点や目標を関係者間で適切に共有・議論し、学識者や関係業界の専門家等によるご助言等を賜りつつ、各種取組の一層の加速化及び具体的な目標の明確化を含む今後の道筋の検討を行うために本会合を開催する。

### 2. 構成

別紙（名簿）のとおり

## CCUSの早期社会実装会議 委員

赤井 誠	九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I2CNER) エネルギーアナリシス部門 WPI 招聘教授
江守 正多	国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長
尾崎 雅彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻 特任教授
小野田 弘士	早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科 教授 (ご欠席)
杉本 裕	東京理科大学工学部工業化学科 教授
高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター 教授
栃川 哲朗	ハリバートン・オーバーシーズ・リミテッド Kaizen & Innovation Strategist
中垣 隆雄	早稲田大学理工学術院 教授
中山 寿美枝	グローバル CCS インスティテュート 取締役
平井 秀一郎	東京工業大学工学院 機械系 教授
松島 潤	東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻 教授